



普段着の交流の広がりや深まり

深川国際交流協会 会長 小瀧 聡

この1年間は私たち協会会員にとりまして結構忙しい年となりました。6月にはアボツフォードから市民有志で構成する訪問団を受け入れ、我々協会員が受け入れの責任母体となりました。「手作りの受け入れ」という考えで普段の深川市民の姿を見ていただき交流を深めたいと考えて受け入れ計画を作りました。納内のボランティア団体が運営する「なごみ食堂」で昼食をとり、その場に居合わせた方々とぶっつけ本番の交流となりました。なかでも、印象に残ったのは、最終日の協会員が手作り料理を持ち寄って開催したポットラック夕食会でした。とても手の込んだ料理が並べられ、日本人の繊細な心遣いが感じられ、カナダ人にとっては、日本文化を知るまたとない機会となったようです。

この受け入れの成果が、今年の青少年カナダ交流訪問団の現地での受け入れに反映されました。アボツフォード滞在中、深川を訪問した方々から思いがけない日本食の差し入れがあったり、協力があつたり例年にはないおもてなしを受けることができました。

10月には、アボツフォードに在住し、深川からの訪問者のお世話をしてくださっている鈴木悦子さんが、私的旅行で深川に来られました。青少年交流訪問団の報告会でスピーチをしてくださり、交流の改善に向けての具体的提言もしてくれました。さらに、ビクトリアに在住している深川出身の星野桂子さんからは、日本人でアボツフォードに在住し、稲作に挑戦し、日本酒の製造に取り組んでいる方が、「深川のコメ作りの技術を学びたいと希望しており、今後、この面での協力の可能性はないだろうか」という問いかけがありました。交流の幅を広げるといふ意味で大いに検討するに値する話であると思います。

今年は深川から公式訪問団が派遣される年に当たります。これまでの経験を踏まえ、普段着で、交流の分野を具体化し、実りのある交流へと発展することを願っています。

深川国際交流協会総会

2018.4.23 (水)

プラザホテル板倉にて深川国際交流協会総会を開催しました。総会では、2017年度事業報告および決算報告、2017年度監査報告がされました。また、2018年度事業計画および予算が提案され承認されました。

総会後には深川市在住のマイケ・マルクスさんにスピーチしていただきました。



2018 インターナショナルデー

2018.6.6 (水)

小中高生を対象に外国人と接する機会を作り、さらに外国人の方々もお互いにとっても日本人との交流を深めてもらうことを目的として、「2018 インターナショナルデー」をプラザホテル板倉にて開催しました。参加者は、ALTの方々や拓殖大学北海道短期大学の留学生を含め、総勢 90 名と、今年も多くの方々にご参加いただきました。

最初のゲームは、ALT のケビン先生による “Who am I?”。外国人との会話の第一歩を踏み出しやすくさせ、効率的に交流を図ることが出来ました。続けて、同じくケビン先生による “Am I the only one?”。参加者全員の中からたった一人に該当する質問を考えるゲームで、中でも特にユニークだったのは、「お母さんがディズニーランドでキャラクターの足を踏んだことのある人」で大いに盛り上がりました。

次は、チームカナダによる “What are you doing?”。いわゆるジェスチャーゲームで、各チームのメンバーが順番にステージ上でジェスチャーしました。サルやネコ等、お馴染みの動物のジェスチャーでも文化が異なれば一味違った表現になるのが醍醐味。中には恥ずかしい様子を見せながらも皆さん楽しんでいました。

軽食タイムを挟み、拓大の留学生が担当するゲーム “The Candy Game” が最後。各チームリレー形式で、日本の文化である “わり箸” を使ってあめ玉を離れた所にある袋に運び入れ、制限時間内に入れた個数を競いました。外国の方々も含めて、ほとんどの人が上手に箸を使ってあめ玉を運び、体を使った簡単なゲームを通して、年齢や文化の垣根を越えてコミュニケーションを育みました。



Program	
17:00	参加者の紹介
17:10	ALT のゲーム * Who am I ? * Am I the only one?
17:40	Team Canada のゲーム * What are you doing ?
18:05	Break time
18:25	拓殖大学 北海道短期大学留学生のゲーム * The Candy Game



チーム対抗戦とはいえ、参加者全員が楽しんで帰れるよう工夫を凝らしたゲームを今年も行う事が出来ました。今後も深川国際交流協会では、楽しく国際交流を図れるイベントを実施していきます。

【国際理解部会 部会長 杉山 一郎】

英語で遊ぼう

2018.6.30 (土)

例年、深川国際交流協会が行っている催し物の一つ『英語で遊ぼう』が6月30日(土)に中央公民館で行われました。この催しはこれからの青少年カナダ交流訪問団員育成の一環として、主に小学5・6年生の子供たちに外国の人々との交流を前もって体験してもらおうというものです。

参加したのは深川市および近隣の3市町のALT4名をはじめとして介護福祉士・研修生2名、小学生7名、2018年青少年カナダ交流訪問団団員4名と引率者、そして関係者4名を含めた合計21名でした。



Program	
10:00	ALT・介護福祉士研修生紹介
10:20	アイスブレイク
10:45	LET'S COOKING !!
11:45	昼食
13:15	ALTのゲーム
14:20	表彰式

まずは主催者である国際交流協会・北本副会長のご挨拶をいただき、始まりです。参加者を5つのグループに分け、今年、青少年カナダ交流訪問団としてカナダに行くメンバーに各グループのリーダーになってもらいました。まずはアイスブレイク。参加者全員に自分の好きなものを二種類、紙に書いてもらい、いったんその紙を集めた後、互いに「Hi, do you like ... ? (あなたは・・・が好きですか?)」と尋ねながらその紙を書いた人を見つけるという遊びで、全員が見つかったらそこでゲーム終了。互いに輪になって、自己紹介(私は・・・です。私は～が好きです。)をします。一見すると単純なようで結構おもしろい遊びです。

10時半、皆で公民館3階の調理室に移動し、料理の開始です。今回のメニューは『カリフォルニアロール』、『フィラデルフィアロール』、『スモア』。といっても、これをお読みになられているみなさん、料理の名前だけ聞いて実物を想像できますか? 『カリフォルニアロール』は食べたことがあります。『フィラデルフィアロール』もきっとその派生型でしょう。でも『スモア』って何? 実はマシュマロに溶かしたホットチョコレートをかけたものだったのです。

今回の料理、たくさんのお米を使いましたが、それは会員の轡田さんが会場に持ってきてくださったものでした。轡田さんのご協力なしにはできませんでした。



後片付けを済ませた後、再びケビンさんの司会によるゲームの開始です。行ったゲームは『Pinata Smash』、『Connect Four』、『Balloon-Minton』、『Two Truths, One Lie』

の4種類。実は私、この年齢で無邪気に遊びまわるのも大人気ないようでなかなか、とか思いまして。でも実際にやってみると頭を使う部分もあったりして結構面白いものばかりでした。

今回の『英語で遊ぼう』の成功は参加してくれた子どもたちのお陰であることはもちろんですが、毎回いろいろな料理やゲームを考えて準備もしてくれるALTのケビンさん、大量のお米を炊いて届けてくれた轡田さん、そして裏方で働いてくれる事務局の皆さんのお陰です。ありがとう！！

この『英語で遊ぼう』という催しは、主に小学5・6年生を対象としていますが、実は興味のある方なら中学生であろうと高校生であろうと参加していただいてもよいと思います。

いずれにせよ、この『英語で遊ぼう』は青少年カナダ交流訪問団の育成の一環として、子供たちに外国の人々との交流を体験してもらおうというものです。国際交流全般についてでも、青少年カナダ交流訪問団についてでも、あるいは外国の人々との交流についてでも構いません。ご興味のある方はどうぞ深川国際交流協会事務局までお問い合わせください。

【派遣・受入部会 部会長 加納 教孝】

第20回 青少年カナダ交流訪問団派遣

2018.7.27~8.11

7月27日から8月11日までの日程で、青少年カナダ交流訪問団を青少年海外派遣事業としてカナダ・アボツフォード市に派遣しました。訪問団のカナダでの感想など詳細については、「青少年カナダ交流訪問団報告書」に掲載しています。

※活動の一部を深川市HPや当協会HPにも掲載しています。



▲写真左から

ビッキー アサダ イングリッシュさん
エアード フラベルさん
水上 唯衣さん(団長・引率)
モ ギルさん
大栗 菜央さん(深川中学校1年)
高橋 大和さん(深川中学校1年)
サンディー ブルーさん
ヘンリー ブラウン AB 市長
内藤 春花さん(滝川西高校2年) リーダー
太田 美空さん(一已中学校3年) サブリーダー
加藤 桜良さん(一已中学校1年)

日程 主な研修内容

7.27	バンクーバー国際空港へ
7.30	英語授業、ウェルカムランチ
7.31	英語授業、ホワイトロック散策
8.1	市役所訪問、トランポリンパーク
8.2	ヴィクトリア視察
8.3	グランビルアイランドなど散策
8.7	英語授業、パンケーキパーティー
8.8	英語授業、カルタスレイク
8.9	英語授業、送別会
8.10	帰国
8.11	深川到着

青少年カナダ交流訪問団報告会&国際文化交流パーティー 2018.10.27 (土)

10月27日“青少年カナダ交流訪問団報告会”と“国際文化交流パーティー”をプラザホテル板倉で開催しました。

参加者は団員の保護者、学校関係者、ALT、拓大留学生、一般市民の方々等80名でした。第一部は青少年カナダ交流訪問団による報告会です。

オープニングで団員達の自己紹介をかねた動画がテンポよく写し出された後、1人1人から印象に残った体験や思い出がたくさん写真を使って報告されました。

団旗に書かれた今年のスローガンは「Always be challenger」。各々がチャレンジャーとして目標を持って有意義な2週間の研修を終えたことが感謝と共に語られました。

持ち帰った5つのカラフルな風船がデザインされた団旗には、アボツフォードで交流のあった方々からたくさんの英語のメッセージが書かれていました。

最後に引率者の水上唯衣さんからは昨年度深川市を訪れたアボツフォード市民訪問団のエアードさんはじめ、メンバー達から温かく迎えられ、これまで積み重ねられてきた交流が両市の絆となっていることを実感したという報告がされました。

会場で配布された報告書の表紙を飾っていたのは、以前アボツフォード市公式訪問団が来市した折に深川市が贈った“夢”という大作の書とその前に並ぶブラウン市長、サンドラ先生、そして笑顔いっぱいの団員達の姿でした。報告書も力作です。ぜひ読んでみて下さい。



報告会に引き続き「国際文化交流パーティー」が開かれました。ビュッフェスタイルのランチを楽しみながらALT、拓大留学生等、外国籍の方々を含む参加者同士が交流し理解を深める催しです。

会場には21名の外国籍の方々がいらして小瀧会長から1人1人紹介されました。

今年のアトラクションは音楽を通して交流を図ってもらおうと小学校の教員で市内在住の富樫淳一さんにエレクトーンを演奏していただきました。

オープニングは軽快なリズムに乗った迫力のある「ロッキーのテーマ曲」でした。続いて「エーゲ海の真珠」、日本の歌謡曲、ドラエもんの歌等、多様な選曲と幅広い年代に合わせた楽曲で、会場は楽しく和やかな雰囲気になりました。

次にこの日アボツフォードから参加されたジャンセン悦子さんにスピーチをしていただきました。悦子さんは青少年訪問団や市の公式訪問を長年現地でサポートしてくださ

っている方です。

仕事として旅行会社を通しての語学留学等のカスタマーズサービスに従事している観点から、当協会の青少年交流訪問の研修内容について素晴らしい点やさらに改善するためのアドバイス等もあり、有益なお話を聞くことができました。

これからも協会の様々な活動をより良いものにしていきたいと願って国際文化交流パーティーを終えました。

【国際交流協会 副会長 上垣 由紀子】

ジャンセン悦子さんの深川市訪問

アボツフォード市在住で当協会とも親交のあるジャンセン悦子さんが今回初めて深川市を訪れました。悦子さんは10年ほど前から現地で青少年カナダ交流訪問団との交流や深川市からの公式訪問団の通訳など、協会のバックアップをして頂いている方です。今回は娘達の義務教育（お弁当作り）も終わり、夫のリチャードや長女のエリカが以前来市していた事もあり、協会関係者への感謝と自分へのご褒美？での訪問でした。



来市中は青少年カナダ交流訪問団報告会&国際文化交流パーティーに参加し、カナダ派遣事業に対してのスピーチをして頂いたり、北本家納屋でのBBQ交流会、市内観光（ギリシャヨーグルト、戸外炉峠、道の駅の釜飯など）、定岡邸でのお茶会、小瀧会長との会食など、短い滞在でしたが多くの方々との交流し親睦が深まったと思います。

悦子さんからは「アボツフォード市に来る留学生や訪問団の中でも深川の訪問団は大きな怪我や事故がこれまでない事がすごい事です」との話もあり、青少年派遣において大事なこと、ホストファミリー先が優遇されていること、高校生の交換留学の問題点など、様々な意見を頂きました。当協会としても悦子さんの貴重な意見を参考にして、今後の事業に生かしていきたいと思います。また今後も悦子さんには現地でのバックアップや支援をお願いしたいと思います。



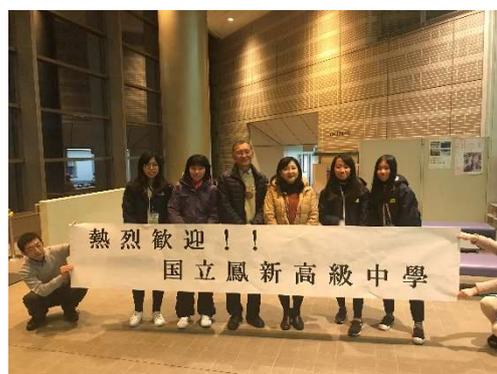
【国際交流協会 副会長 北本 清貴】

台湾からのお客さま

小瀧先生からの依頼で、昨年12月13日～14日「国立鳳新高級中学」の学生4名を預かる事になりました。日本教育旅行5泊6日の旅の一日をホームステイする目的で深川観光協会が窓口だと知りました。何せ午後4時に出会い、翌朝9時には別れるといった短い滞在ですから、どうやって過ごしてもらおうか…と家族であれこれ考えました。

当日お互いに言葉の通じない者同士身振り手振り笑顔で対応。彼女達を色々前準備をして待ち受けていた孫達にはわかに覚えた中国語で自己紹介をし、スマホで言葉の壁をなくし、夕食後には「雪遊びがしたい！」と外に出てソリ滑りや雪投げを楽しみ、その後トランプなどで夜が更けました。1学年700名の高校1年生二人と2年生二人は、この旅行で初めて顔を合わせたことを知り、納内小学校の全児童が50人余りと聞いてお互いに驚いていました。

素直に育った彼女達が北海道の冬を体験し楽しんで帰国してくれたならホームステイの意義があったと思います。また、孫達にも良い体験だったと喜んでおります。



【国際理解部会 副部会長 轡田 淑子】

賛助会員のご紹介

当協会を支援していただいて賛助会員の中から、掲載のご了承をいただいた会員を五十音順にご紹介します（当協会ホームページでも掲載しています）。

掲載をご希望される賛助会員の方はご連絡ください。

医療法人アンリー・デュナン会	協立測量設計株式会社
(株)倉本道新販売店	(株)しまの
神竜土地改良区	多度志土地改良区
寺岡工務株式会社	中澤歯科整形外科医院
ヒロノ株式会社	深川市役所
深川青年会議所	深川土地改良区

日本語修得に懸命なフィリピンの若者たち

フィリピンから介護福祉士を目指して来日する若者を受け入れ始めて6年が経過しました。その間に受け入れた研修生は10名を超えました。協会がこの事業に協力する際に意識したことは、日本語力の向上を目指すだけでなく、フィリピンの若者たちがこの地域に根を張って、この地域の人々との理解を深めながら安心して生活できるように支援することでした。幸いにして、これまで一人の落伍者を出すこともなく継続でき、とても喜ばしいです。これは、研修生受け入れ主体である医療法人アンリーデュナン会の真摯な受入姿勢と研修時間を大切にす勤務体制が整備されていたからです。



先月、外国人労働者受け入れを拡大することを意図して改正出入国管理・難民認定法が成立しました。特に印象として残ったのは、労働力確保という狙いが前面に出て、その労働力を提供する「人として」の外国人の日本でのありようについての議論が深められなかったことです。継続的に健全な労働力を確保するためには、外国からくる人々が安心して生活できること、人として自分たちの文化を守りつつ、日本人社会に溶け込むことができることが肝要であるはずで、ところが日本に来た外国人労働者の中から多くの失踪者が出ており社会問題化しているという現実があります。

昨年9月に現在日本語授業を受けているフィリピンの若者4人による公開スピーチが開催されました。彼ら全員、職場になじみ、深川で安心して生活をしていることが強く印象に残りました。この受け入れの取り組みは、規模は大きくはないもののその中身は、事業主体と地域の連携のもとに進められており、着実に成果を上げていく一つのモデルとなると評価できます。



【会長 小瀧 聡】

深川国際交流協会とは

当協会では、市民のみなさんがさまざまな外国への関心と理解を深めるきっかけ作りをしています。

青少年カナダ交流訪問団派遣、インターナショナルデー、英語で遊ぼう、青少年カナダ交流訪問団報告会&国際文化交流パーティーなどを毎年開催。

「広報ふかがわ」や協会ホームページでお知らせしますのでみなさんぜひお越しください。お待ちしております♪

【協会HP】 <http://www.fukakoku.sakura.ne.jp/>

【事務局】 深川市役所 企画総務部 企画財政課 企画係内
電話 0164-26-2246

E-mail f-kokusai@fukakoku.sakura.ne.jp



深川国際交流協会
シンボルマーク